

市民と行政の協働で 豊かなやまとを つくりましょう

## わたしたちの大和の市民活動の姿

平成 12 年度 市民活動団体実態調査報告書 概要版



平成 12 年 11 月  
大和市役所市民経済部市民活動課

### この調査の背景とねらい

私たちの大和を、よりよい地域にするためには、多くの市民が地域に関心を持ち、お互いにアイデアを出し合い、力を合わせて行動することが大切です。

大和では、保健・福祉、環境、教育、国際、文化、スポーツ、まちづくり、災害など様々な分野で、市民による自主的な活動が行なわれ、まちに彩りを添えています。市役所は、市民の皆さんと共に、今までの殻を破り成長していきたいと願っています。

ある時は市民のサポーターとして、ある時はリーダーシップを発揮しながら、みなさんと協働しつつ、21 世紀の豊かな大和のまちづくりを進めていきたいと考えています。そして、この市民が主体となり担う部分が、更に拡大していくことを期待しています。

このための第一歩として、大和市では、この新たな市民社会づくりの中心となる市民活動団体の皆さんに現状をお伺いすることにしました。

## まとめ （注：本資料は、概要版です。詳細は本報告をご覧ください。）

### 調査の進め方

広報にて公募した市民活動団体、学習センターやコミセンの利用団体、各課で把握している市民活動団体など、総数 1124 団体に 7 月末に調査票を郵送しました。9 月 18 日までに 831 通を回収し、有効な回答 829 件を解析の対象としました。回収率は、74%の高率に達しました。

### 結果の概要

#### 30 50

市民活動団体の約 80%は、会員数 30 名未満、年間活動費 50 万円未満の団体です。参加している方は 50 歳以上が約 80%で、女性の比率の高い団体が約 75%に達しています。(2 頁)

#### 1/3

活動のうち、社会的な活動をしている団体が約 30%で、仲間内の活動を行っている団体が約 70%でした。仲間内の活動を行っている方たちの約 1/3 は、チャンスがあれば社会的な活動を行ってみたいと希望しています。(2 頁)

活動分野は、「文化・芸術」が 30%、「スポーツ・健康促進」が 23%で多く、その他、「環境保全」、「保健・医療・福祉」、「教育」、「まちづくり」など多彩な活動が続きます。(3 頁)

活動のための情報の受発信は、広報誌や口コミ、イベントなどが主で、電子ネットワークの活用は進んでいません。(4 頁)

#### 1/3

「協働」という言葉を全体の約 1/3 の方が知っていると回答し、多くの方が「協働」が重要であると回答されています。(6 頁)

「協働」を進めるための行政の支援として、「会合の場の提供」、「広報誌の利用促進」、「支援センターの設置」、「補助金」などが多くの方に期待されています。(6 頁)

活動を進める上で困っていたり、改善したいこととして、仲間内の活動では「活動の場」、「会員」が、社会的な活動では「資金」、「運営」があげられています。(7 頁)

### これからの計画

大和市全体の市民活動がより活発化するために、上に示された問題の解決に向けた課題は何か、1/3 に達する社会的活動に興味のある仲間内の活動を行う団体の方たちが新に動き始めるための課題は何か、これに向けた市役所の役割は何か、市役所として改善すべきことは何か、どんなふうに市民活動を応援すれば良いかなどを検討していきたいと考えています。そして、市民活動と行政の協働のしくみづくりにつなげていきたいと考えております。ご期待ください。

(なお、この調査は、市民活動と行政の協働の一例として、特定非営利活動法人 かながわ環境教育研究会に企画・分析等の業務を委託して進めました。)

## 市民活動団体の姿

### 会員について

829 団体のうち、個人のみで活動する団体は 779 団体、個人会員と団体会員の両方を含む団体は 50 団体、団体会員のみで活動する団体は 21 団体でした。これらの会員数を合計すると、個人会員総数は 49,520 人（市民の約 4 人に一人にあたります）、団体総数 1,106 団体になります。

活動団体の個人会員の数は、10 人未満が 23%、10～20 人未満が 38%、20～30 人未満が 16%で、30 人未満の団体が全体の約 80%を占めています。

### 会員の最多年齢層（図 1）

会員の年齢層は、60 歳以上が 48%と一番多く、50 歳代を合わせると 80%に達しています。

### 会員の男女比について

会員の構成を見ると、女性の割合が多く、「殆どが女性」の団体が 47%を占め、「女性が多い」団体も含めると 75%に達します。「殆どが男性」、「男性が多い」団体を合計しても 15%で、男性の活動が少ないことがわかります。

### 活動団体の活動の性格

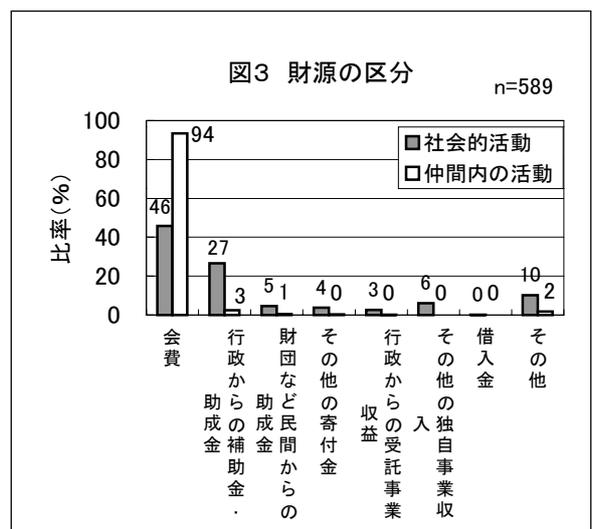
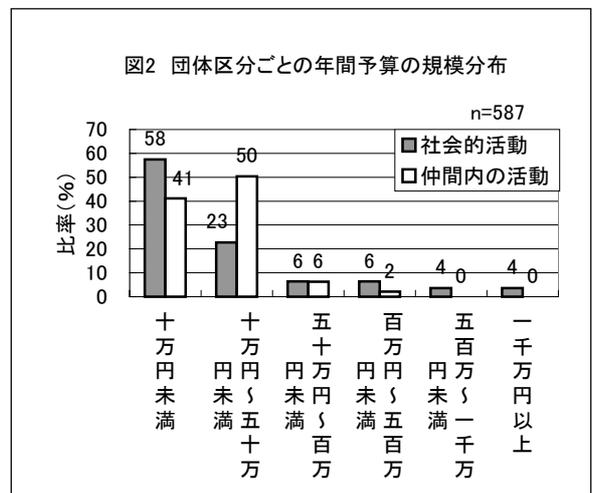
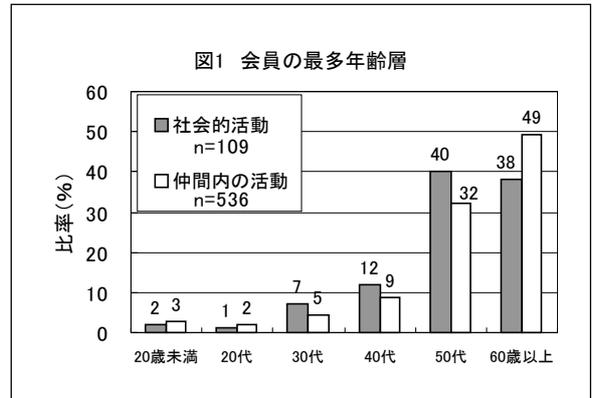
活動団体の性格を、社会的な活動（ボランティア活動、介護サービスなど社会や人のために行なう活動）、仲間内の活動（趣味やスポーツなど自分や仲間のために行なう活動）に区分すると、社会的な活動を行う団体は 16%、仲間内の活動を行う団体は 71%、両方の活動を行う団体は 13%です。仲間内の活動を行う団体の 33%は、チャンスがあれば社会的な活動を行ってみたいと希望しています。

### 年間の予算（図 2）と財源（図 3）

10 万円未満の予算で活動している団体数は、全体で 44%、10 万円以上 50 万円未満の予算で活動している団体は 87%で、90%近い団体が年間 50 万円未満の予算で運営されています。

財源は、仲間内の活動を行う団体では 94%が会費、4%が補助金などで構成されています。

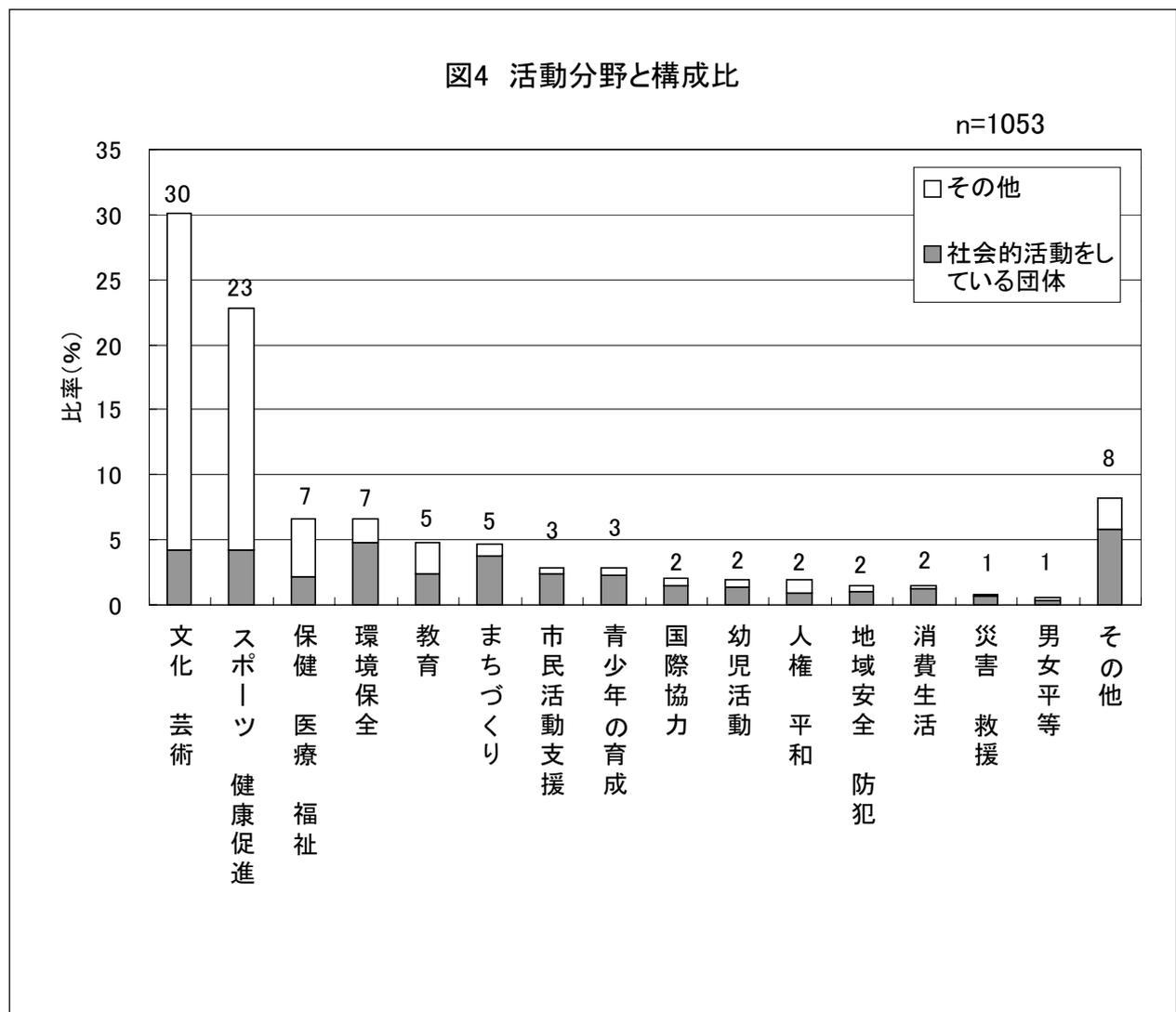
社会的な活動を行う団体では、会費が 46%、補助金・助成金・寄付金の合計が 36%、事業収益が 6%となっています。事業収益は、非常に少ない比率です。



## 活動分野

どのような分野の活動が多いかを調べました。(図4)

「文化、芸術」に携わる団体が一番多く、全体の30%です。次が「スポーツ、健康促進」(23%)で、これら二つの区分で全体の約半分を占めています。「保健、医療、福祉」、「環境保全」、「教育」、「まちづくり」がこれに続いています。「環境保全」は、全体の7%を占めていますが、この内約60%が公園等の愛護会です。



### 調査のまとめ方

14 の活動分野の中から複数回答を可として活動を選んでいただき、結果を合計して 100%として、構成比率を求めました。図中の n は、回答の総数です。

図中の■は、社会的な活動を行う団体を示します。□は、仲間内の活動を行う団体と未記入の団体の合計を示します。

## コミュニケーション（情報の入手や発信など）

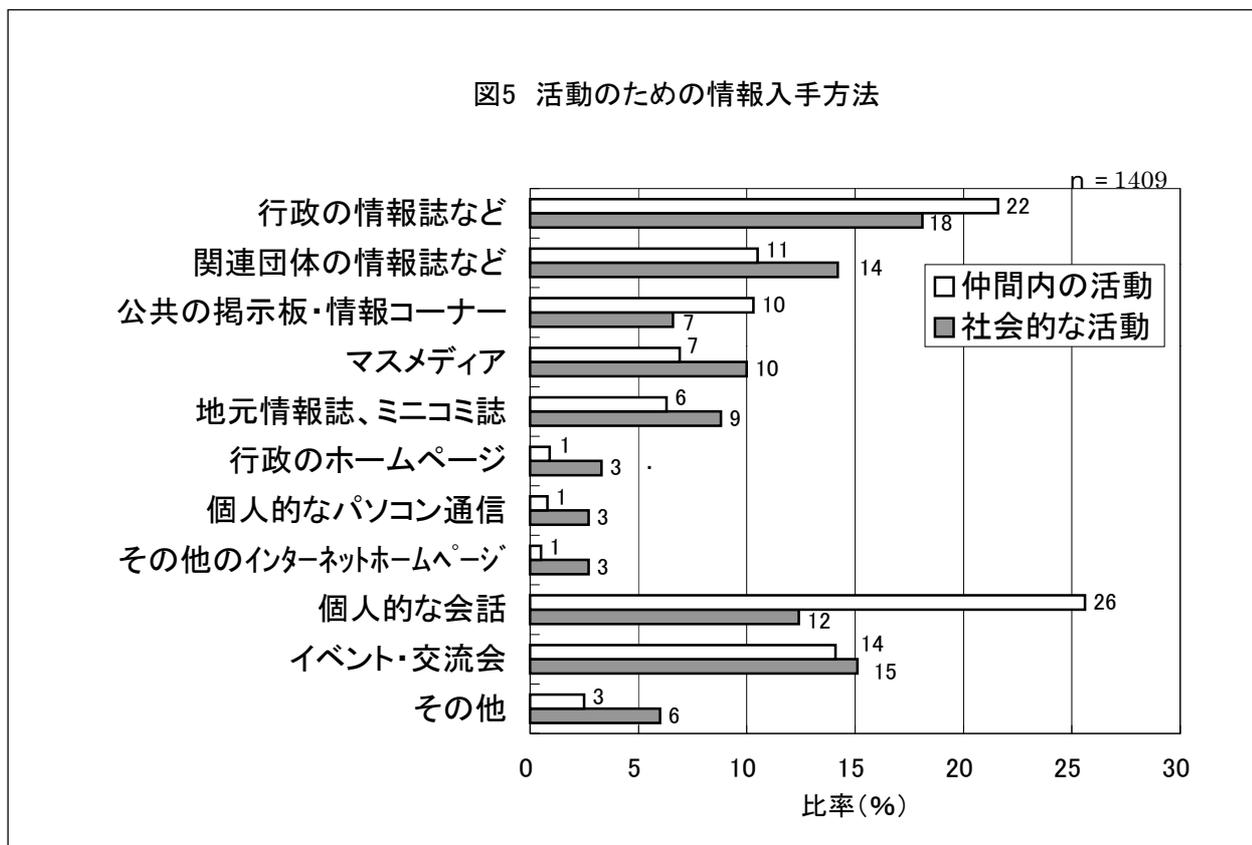
活動のための情報の入手方法を調べました。重要と思う手段を複数回答していただき全体を 100%として、各手段の比率を求めました。

市民活動団体全体でみると「行政の情報誌（広報やまと）」、「個人的な会話」が一番の情報源となっています。（図 5）

社会的な活動を行う団体では、「行政の情報誌（広報やまと）」（18%）、「イベント・交流会」（15%）、「関連団体の情報誌など」（14%）となっています。

仲間内の活動を行う団体では、「個人的な会話」、「行政の情報誌」が、26%、22%と多く、人を介する情報のやり取りが主体であるといえます。

「行政の情報誌など」から「地元情報誌、ミニコミ誌」までを“メディア”、「行政のホームページ」から「インターネット」までを“ネットワーク”、「個人的な会話」、「イベント・交流会」を“人”として手段をくくってみると、市民活動団体全体では、それぞれ 58%、4%、34%となっています。ネットワークの活用は、全体では 4%、社会的な活動を行う団体で 9%、仲間内の活動を行う団体では 3%で、他の手段に比べて大幅に少ないことがわかります。



また、情報の発信についても調べました。結果は、情報入手と同じような傾向でした。

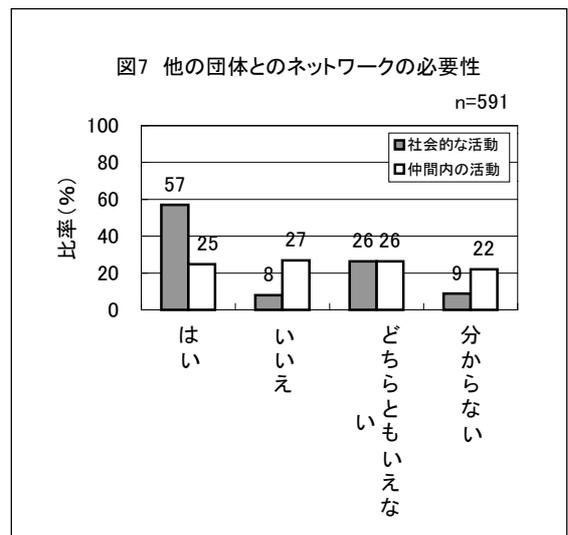
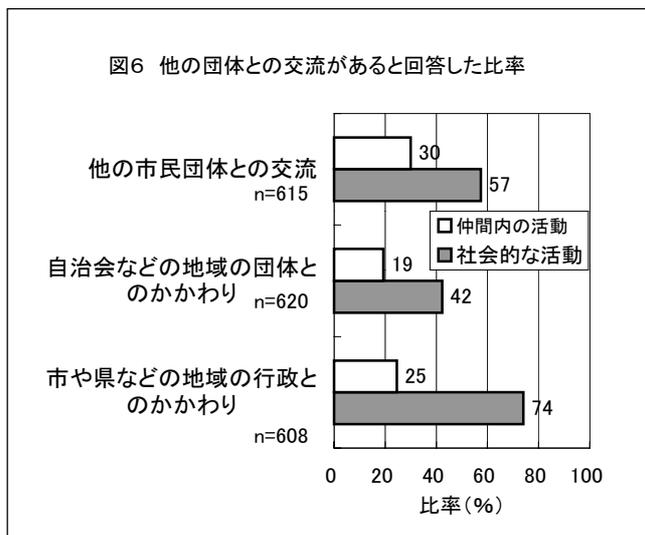
団体の間のネットワーク（つながり）づくりに有効な手段に関する項目では、インターネットを通じた電子ネットワーク活用の可能性が示されています。

## 団体間の交流

### 他の団体との関わりの状況（図6）

社会的な活動を行う団体では、「地域の行政との関わり」（74%）が強く、次いで、「他の市民団体」（57%）、そして、「自治会などの地域の団体」（42%）となっています。

仲間内の活動を行う団体では、全般的に社会的な活動を行う団体より他の団体との関わりが少ないようです。最も大きいものが、「他の市民団体との交流」で、30%の団体が「ある」と回答しています。「行政との関わり」、「自治会などの地域の団体との関わり」は、それぞれ 25%、19%で社会的な活動を行う団体の半分以下です。



### 団体間のネットワーク（つながり）について（図7）

団体とのネットワークの必要性は、全体では、34%が「はい」、22%が「いいえ」と回答しています。

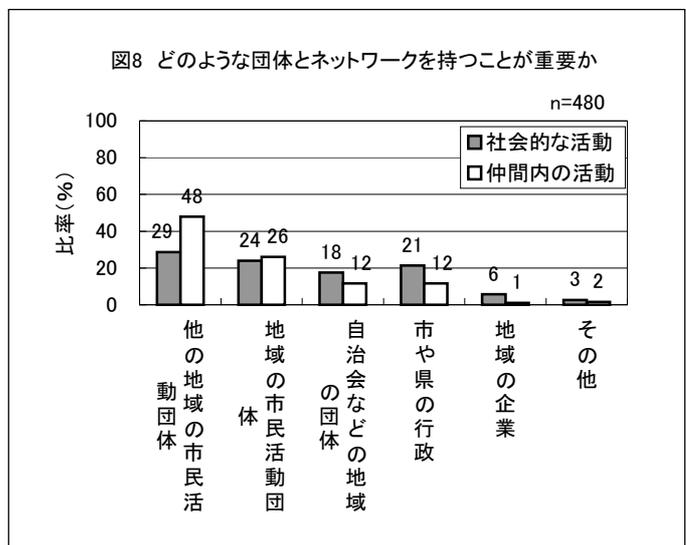
社会的な活動を行う団体では、57%が「はい」と答え、「いいえ」の8%を大きく上回っています。

仲間内の活動を行う団体では、「はい」、「いいえ」が、ほぼ同数(約25%)です。いずれの区分も、「どちらともいえない」が約25%あります。

### 他団体とのネットワークについて（図8）

どのような団体とネットワークを持つことが重要だと考えているかを、ネットワーク化が必要であると回答した団体に、複数回答可で回答して頂きました。

最も必要と考えられているのは、「他の地域の市民活動団体」です。これに、「地域の市民活動団体」とのネットワークを合わせると、社会的な活動を行う団体では53%、仲間内の活動を行う団体では74%となり、市民活動団体同士のネットワークが重要と考えていることが分かります。



## 市民活動と行政との協働

### 「協働」という言葉について（図9）

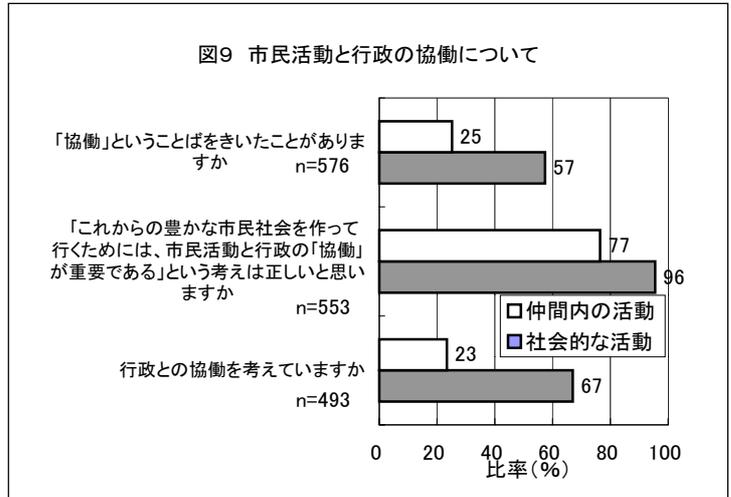
「協働」という言葉を聞いたことがある方は、社会的な活動の団体の方では 57%、仲間内の活動では 25%の方です。

### 市民社会づくりのための協働の重要性

豊かな市民社会づくりのためには、「協働」「重要である」と考える方が多く、社会的な活動団体では 96%に達しています。

### 団体の活動をより充実させるための、行政との協働の可能性

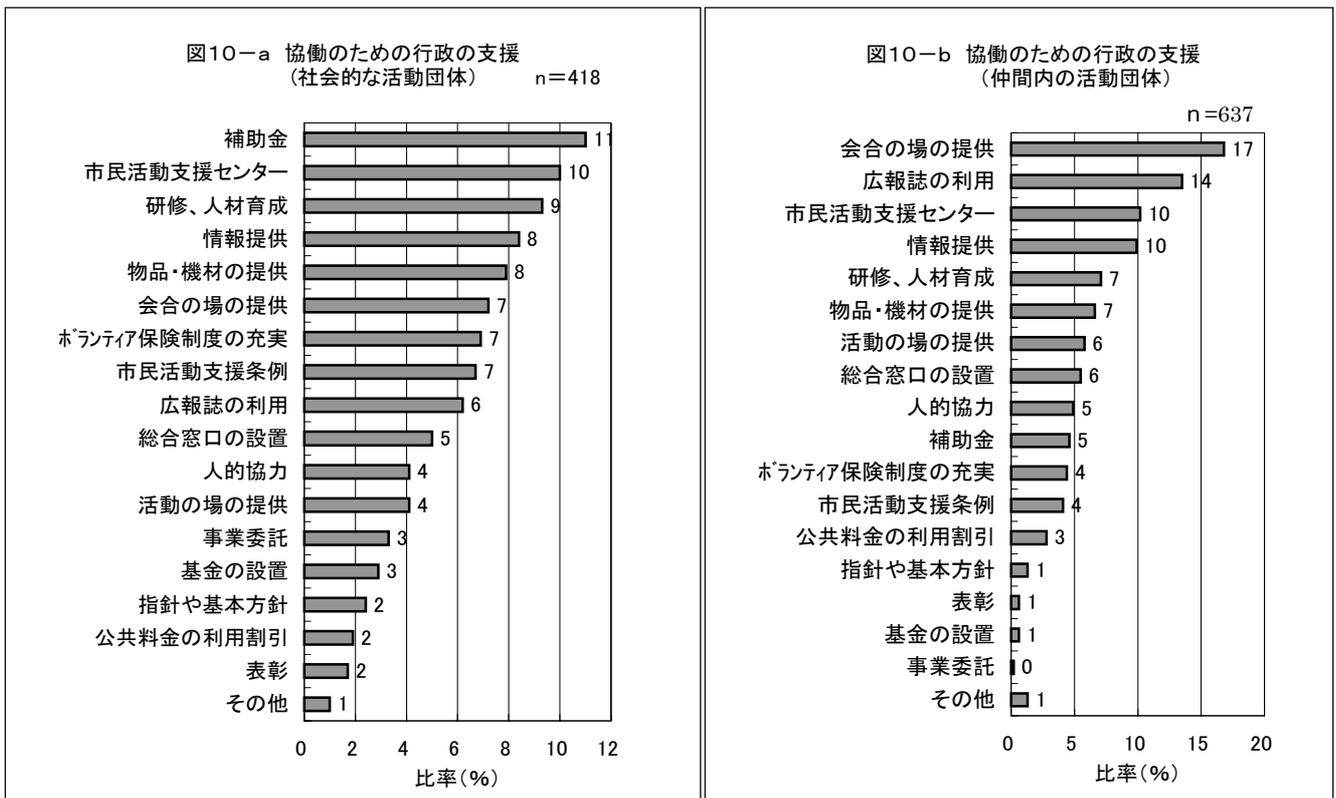
社会的な活動団体では 67%が、行政との協働を「考えている」と回答しています。



### 協働のための行政支援として重要であると思う項目

図 10 の縦軸の 18 項目から複数回答を可として選択頂き、合計を 100%として整理しました。

社会的な活動を行う団体は、「補助金」、「市民活動支援センター」、「研修、人材育成」を、仲間内の活動を行う団体は、「会合の場の提供」、「広報誌の利用」、「市民活動支援センター」を、上位三件の支援策として挙げています。



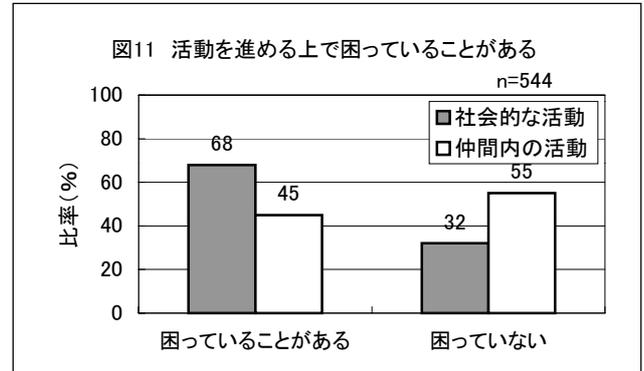
## 活動を進める上で困っていたり改善したいこと

### ○困っていたり、改善したいことがありますか(図11)

全体では、半数以上の団体が困っていたり、改善したいことがあると回答しています。

右の図に示すように、社会的な活動を行う団体では68%が、仲間内の活動を行う団体では45%が、困っていたり、改善したいことがあると回答しています。

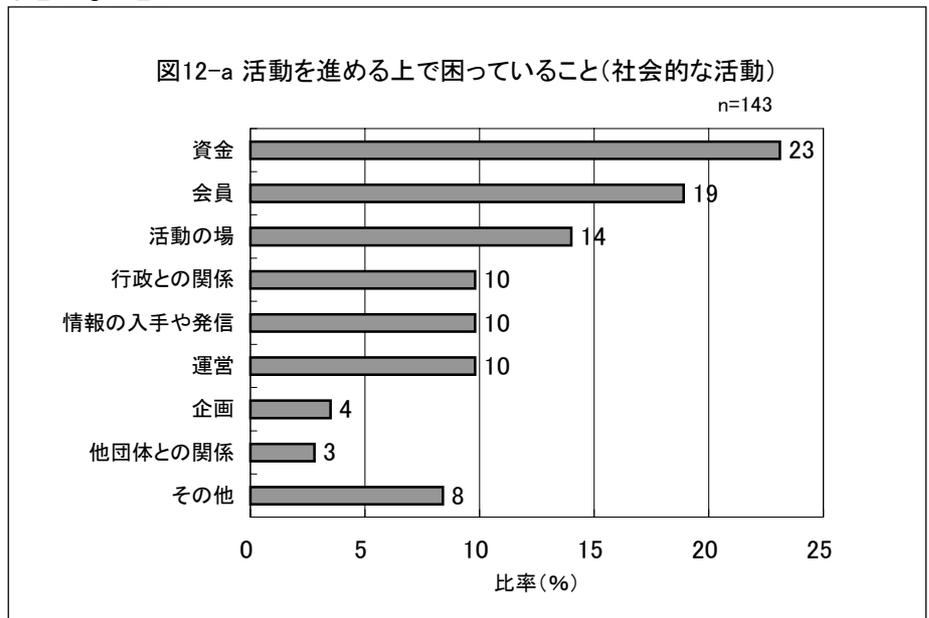
社会的な活動を行っている団体のほうが、困っていることが多いことが分かります。



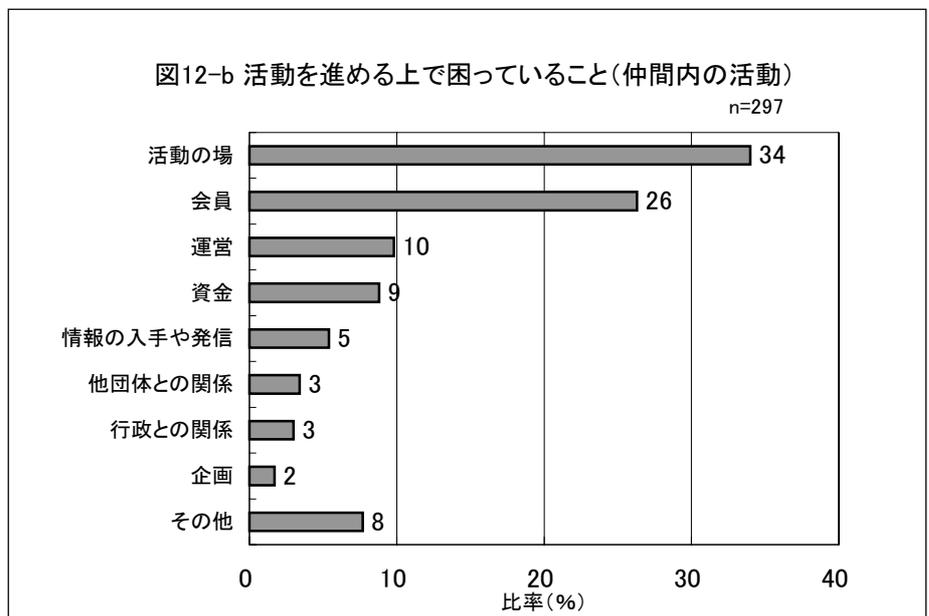
### ○困っていたり、改善したい点はどんなことか

困っていたり、改善したいことを図12の縦軸に示す8つの側面に分け、複数回答可で選択していただき、全体を合計し100%として各項目の比率を求めました。

社会的な活動を行う団体が困っていることは、「資金」が最も比率が高く、次いで「会員」、「活動の場」と続いています。(図12-a)



仲間内の活動を行う団体が困っていることは、「活動の場」で、全体の34%を占める大きな問題です。次いで「会員」の問題がつづいています。(図12-b)



## 活動を進める上で困っている点と行政へ期待すること(自由記述まとめ)

困っていること・改善したいこと および 行政へ期待することの整理

活動を進める上で困っていたり、改善したいと考えていることを、「活動の場」、「会員」、「資金」、「運営」、「行政との関係」、「情報の入手や発信」、「企画」、「他団体との関係」、「その他」に分け記述して頂きました。下表にポイントを整理しました。

因子	困っていたり改善したい点	行政へ期待すること
活動の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 場所の確保が大変</li> <li>・ 既存の施設の問題（運営、人材他）</li> <li>・ 事務所、保管場所</li> <li>・ 新たな施設（ギャラリー、キャンプ場他）(121)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コミセンの予約方法改善</li> <li>・ 学習センター、青少年センター等の利用方法改善</li> <li>・ 老朽化した学習センター立て替え</li> <li>・ 施設増設（ギャラリーなど）(98)</li> </ul>
会員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員数（不足、減少、増え難い他）</li> <li>・ 会員の募集（新会員、方法不明）</li> <li>・ 会員の状況（高齢化、意欲にバラツキ他）</li> <li>・ 活動面（ボランティア不足、要請に応えられない他）(83)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会員募集（広報を活用、小学校でのPR）</li> <li>・ 人材育成（会員教育、講師養成）</li> <li>・ サービスの対象（次のサービスを考えたい）</li> <li>・ 会員サービス（会員移送の車手配）(45)</li> </ul>
資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 歳入面（会費、補助金、助成、自己負担）</li> <li>・ 歳出面（会場費、機材等購入他）(41)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 助成金・補助金等の支援</li> <li>・ 貸し出し（OHP、スライド、教材、福祉バス）(28)</li> </ul>
運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人の問題（スタッフ不足、代表の負担大）</li> <li>・ 資金が不足し運営が難しい</li> <li>・ 事務所がなく運営が難しい</li> <li>・ ノウハウの不足で運営が難しい(35)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の提供</li> <li>・ 会員募集への協力</li> <li>・ 人材面の協力・支援（指導者派遣他）</li> <li>・ 行政としての支援政策の実施（市民活動支援条例、支援センターの設置）(11)</li> </ul>
行政との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体質（職員や懇話会）</li> <li>・ 施設、委託（行政から委託が欲しい）</li> <li>・ コミュニケーション（行政は隠し事をする）(13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協働の枠組み・仕組みづくり</li> <li>・ 協働による制約をなくし、最後まで責任もって支援して欲しい</li> <li>・ 体質改善と効率化(15)</li> </ul>
情報受発信 13-10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手段（広報になかなか載らない他）</li> <li>・ 施設（作業場所がない）</li> <li>・ 人材（高齢化の為パソコンは使えない）(13)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発信（手段が欲しい）</li> <li>・ 広報（紹介紙面を増して欲しい）</li> <li>・ 情報開示促進</li> <li>・ 人材育成（高齢者向け説明会、他市町村の研究他）(10)</li> </ul>
企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サービス対象年齢の絞込みが問題</li> <li>・ 指導に関する能力向上の方法が問題</li> <li>・ 企画内容がなかなかまとまらない</li> <li>・ 企画がマンネリ化している</li> <li>・ 企画する人が限られている(6)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指導者の講習会を開いて欲しい(1)</li> </ul>
他団体との関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同じような活動団体が分からない</li> <li>・ 参加の障害（子連れで参加できない）</li> <li>・ 活動の対象（子どもとの共同作業を希望）(5)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同様の活動をしている団体の情報を知りたい</li> <li>・ 育児付の集会にして欲しい(3)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政のマネジメントに課題あり</li> <li>・ コミセン夜間利用の鍵返却方法改善</li> <li>・ 公園（トイレ、水道、ごみ箱の設置）</li> <li>・ 機材（バスが土日使えない他）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政のマネジメントシステム構築</li> <li>・ コミセンの鍵返却を日中でなくして欲しい</li> <li>・ 学習センター等の倉庫の整理をして欲しい</li> <li>・ 機材の貸し出しを希望（休日のバスも）</li> </ul>

注) ( ) は、記述の件数を示します。

## 活動の場について、困っていたり、改善したいこと

困っていたり、改善したいことの内最も件数の多かった「活動の場」に関する自由記述を整理しました。

予約の仕組み、部屋の大きさ、借りられる時間などさまざまな点で困っている様子が浮き彫りになっています。

社会的な活動を行っている団体では、事務所や機材の保管場所に困っている様子が示されています。

既存の施設に関する問題では、運営の問題や、施設の老朽化なども指摘されていました。



### 活動の場について困っていること・改善したいこと

#### 場所の確保

- ・ 場の確保が大変
- ・ 都合のよい場所、時間が取れない
- ・ 広い部屋が取り難い
- ・ 一日や二日など長い時間が取れない
- ・ 予約の仕方は、早い者勝ちでなくて、抽選にして欲しい
- ・ 地元以外の方の利用があり、場所の確保が困難になった
- ・ 部屋の予約がしにくい(毎月申し込みが大変、くじ引きのため予約できる時間、会場が不確定)

#### 既存の施設の問題

- ・ 学習センター、コミセンなど
  - 運営、収納場所、人材、空き施設の活用、自治会館の利用
- ・ 施設の改善
  - 空調の不良、冷暖房がない、福祉センターの機能訓練室手狭など
- ・ 青少年センター
  - 申し込みの改善、利用対象の限定
- ・ 武道場
  - 他の団体に利用され、なかなか利用できない。

#### 事務所、保管場所

- ・ 事務所がない
  - 会員が集まらない/外部からの訪問を受け難い
- ・ Fax、パソコンなどを活用できる場所がない
- ・ 資料/用具などの保管場所がない

#### 新たな施設・その他

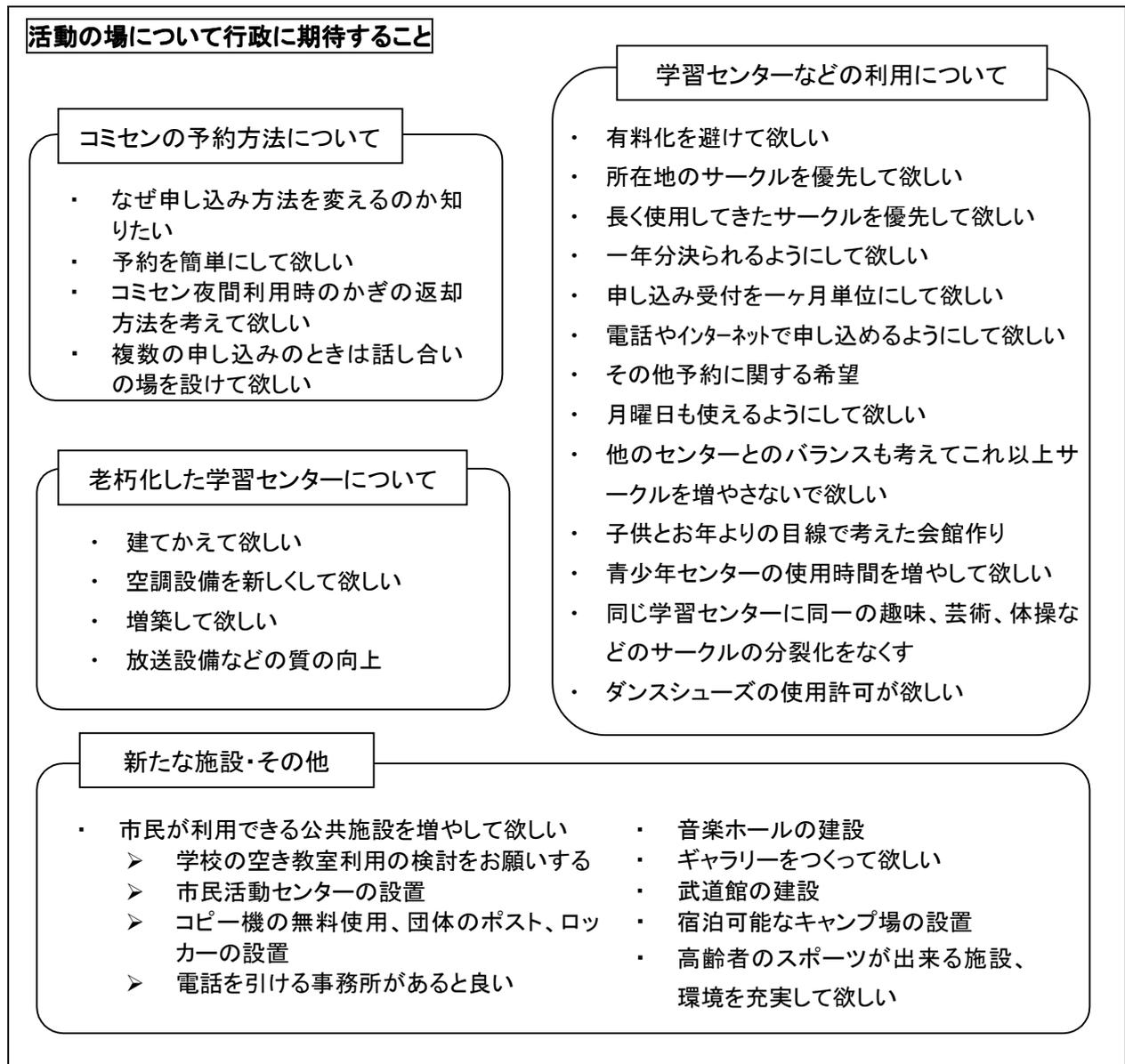
- ・ グラウンドが不足している
- ・ キャンプ場がない
- ・ ギャラリーがない
- ・ 良い音楽ホールがない
- ・ 子どもとくつろげる場所が欲しい
- ・ 精神障害者がくつろげる場所がない
- ・ 発表の場がない

## 活動の場について、行政へ期待すること

「活動の場」について、自由記述で示された期待することをまとめました。

コミセンの予約方法、老朽化したセンターの整備、学習センターなどの利用についての期待・要望が多く寄せられています。

市民活動を推進するための、市民が自由に利用できる施設(市民活動支援センター)の設置が求められています。その他、ギャラリーやキャンプ場の希望などもあります。



本報告は、ホームページで全文を公開するほか、報告書を希望する方には送付させていただきます。  
お申し込み、お問い合わせ等は、市民活動課までお願い申し上げます。(046-260-5103)



平成 12 年度 大和市市民活動実態調査報告書 概要版

平成 12 年 11 月 15 日発行

委託者 大和市市民経済部市民活動課

神奈川県大和市下鶴間 1-1-1

Tel 046-260-5103 Fax 046-260-5138

e-mail [katudo@gov.city.yamato.kanagawa.jp](mailto:katudo@gov.city.yamato.kanagawa.jp)

受託者 特定非営利活動法人かながわ環境教育研究会

神奈川県大和市上和田 2412-1-12-502

Tel/Fax 046-269-5646

e-mail [JZS01374@nifty.ne.jp](mailto:JZS01374@nifty.ne.jp)